

# 7月 ふれあいルーム便り

通所介護・地域密着型認知症対応型通所介護

医療法人社団芙蓉会 デイサービス ふれあいルーム 2020年7月15日 No.298



## 「まさか 家が！」にならないために

ふよう病院管理課防火管理担当 松倉 三雄

私は消防職員でしたので、現役時代数多くの火災現場で「原因調査」のため出火建物の方から話を伺う機会がありましたが、火元の方で「ああやっぱり、自分の家が火事になった。」という方はいません。みなさん「まさか、家が火事になるとは思わなかつた。」という声ばかりでした。

火災を経験される方はごく少ないのでどうしても「まさか自分のところが…」と思いますが、火災になれば思い出の品や財産はおろか自分・家族の命を失うことにもなりかねません。

ここで「まさか！」というような火災の事例を見ていただきましょう。

### 【事例1】 電子レンジで布巾を乾かそうとして加熱し出火

この火災は高齢の居住者が、濡れた布巾を乾かそうと電子レンジに入れ温め、そのことを忘れて外出しました。その後、起きた居住者の妻が電子レンジから煙が出ているのを見出し、プレークーを落とした後に119番通報し、ぼや火災ですみました。

高齢者が調理器具や暖房器具を、本来の用途以外に使用した火災は毎年発生しています。家族は高齢者の火の取り扱いに注意し、普段から行動を把握することが大切です。



燃えた布巾の様子

### 【事例2】 住宅から出火し、高齢者の死者2名が発生した火災

この火災は住宅の1階から出火したもので、出火原因是1階の壁付コンセントに接続された延長コードの上に物が長期間置かれていたため延長コードの被覆が傷つき、短絡して出火したものです。

出火した建物は、高齢者2人が居住する住宅です。就寝時間帯の深夜（3時頃）に出火し、更に二人とも歩行が不自由だったことから避難できずに亡くなる結果となりました。コードの上に物を置いたり、踏みつけられる場所に配置したりしてコードの被覆が傷つき絶縁が保てなくなると、出火する危険性があります。点検や清掃など適正な維持管理を心掛けてください。



出火した部屋の様子



コードの短絡痕の様子

この事例のように「まさか自分のところが…」ということにならないよう、ご本人そしてご家族の方も普段から十分ご注意ください。

出典：東京消防庁「火災の実態」

平成26年、令和元年版

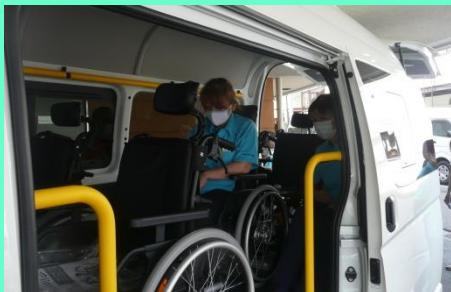


# 新車が納車されました



**操作方法と乗り心地も体験！**

新しい福祉車両（ハイエース）が納車され、活躍しています。車椅子4台が乗れ、車椅子乗降介助を実践しました。これからも安全な心地よい運転を心がけ、皆様に快適な送迎サービスを提供してまいります。



効率の良い送迎で時間短縮を目指します。

## cooking 梅シロップ作り



ヘタを取り冷凍しておいた青梅と氷砂糖を交互に詰めていただきました。2週間後に飲む「梅ジュース」が待ち遠しいです。梅のクエン酸は疲労回復に効果がありますので、皆様と一緒に暑い夏を乗り切りましょう。



## 6月の作業＆壁面制作



牛乳パックとお花紙で作るミニ吹き流し。小さめに作ったお花紙のお団子を牛乳パックに貼って吹き流しの「薬玉」にしました。短冊に皆様の願いを書いていただき、華やかに飾りました。



医療法人社団芙蓉会

ふれあいルーム

〒194-0005 東京都町田市南町田 3-43-1 FAX 番号が変わりました。

042-788-3302

042-788-3303

ご利用日のご案内

月曜～土曜日、祝祭日

9:30～16:40

日曜日はお休みです。